



国際化の最前線から



コロナ禍を経ての中国富裕層に対する キャッチアップ

新型コロナウイルス感染症による隔離政策などで、中国出張を3年以上できなかった自治体も多いかと思います。もともと中国駐在経験のある日本人の間では、「3カ月以上中国に行っていなければ語る資格はない」と言われてきた国で、この3年間の変化を少しでもキャッチアップしてもらえるように、この4月から4回中国に行ってきた筆者の感想をお届けします。

まずは、旅行に関する意識の変化です。コロナ禍前までは、中国富裕層にとっての旅行先は海外でしたが、海外渡航の制限が多かったこの3年間で、チベット、雲南や新疆のような中国国内の遠距離旅行が徐々に人気上昇してきました。中国国内交通インフラの発展、内陸宿泊施設の充実、さらに辺境ならではの中国少数民族文化を活かした体験メニューなどが、沿海部に集中している富裕層に国内旅行を見直させました。これから、北京や上海など東部エリアの富裕層にとって、同じく飛行機に3時間乗るなら、さらに東の東京に行くか、それとも国内の雲南省に行くかについてコストパフォーマンスを比較する時代になってくるかもしれません。

そして、日本においてはこれから中国国内での友好交流イベントを再開される自治体も多いかと思います。一方的な日本文化をプロモートするイベントよりは、日中の交流による文化の変遷や多元化を強調した見せ方のほうが、地元の政府などに歓迎されるかと思います。例えば、「華道」、「茶道」や「香道」などをパフォーマンスする際には、昔中国から伝来してきた歴史から、ここ数百年の日本での変化、発展などを説明しながら、日本人と中国人の両方の先生に実演していただいたほうが、地元政府だけでなくメディアやKOLたちにもより拡散さ

株式会社行楽ジャパン 代表取締役社長 袁 静

れやすくなります。さらに、ここ2、3年間の中国国内の「漢服」や「唐装」ブームに合わせての企画が、より拡散効果が期待できるかと思います。例えば、中国古代要素を多く取り入れた日本の「着物」と「唐装」の同じ舞台でのショーなどは、面白いかと思います。

なかなかこの誌面では伝えきれないこの数年間の中国の変化は、ぜひ一度出張されて実感してみてください。2019年と同じようなインバウンド対策や文化経済交流計画では、いまの中国には通用しないかもしれません。



2023年1月静岡県主催
中国浙江省との友好提携40周年に係るオンラインファン
ツアー

プロフィール

袁 静 (えん せい)

上海市生まれ。北京第二外国語大学卒業。早稲田大学アジア太平洋研究科修了後、日経BP社に入社し日本で10年間を過ごす。帰国後、日本の魅力を中国へ伝えようと2007年より上海にて事業を展開し、2015年より日本拠点を設立。現在、上海と東京にオフィスを構え、中国での日本の観光PRに活躍する。著書に『日本人は知らない中国セレブ消費』、『中国「草食」セレブはなぜ日本が好きか』がある。一般財団法人自治体国際化協会プロモーションアドバイザー、観光庁インバウンド地方誘客促進専門家としても活動している。